[演題 9]

都市部におけるアメリカカンザイシロアリの防除事例

○佐々木 健[1)]　大山 克幸[2)]　元木 貢[1)]

1)アペックス産業株式会社　2)株式会社中央社

A case of control of *Incisitermes minor* (Hagen) in the urban area in Tokyo

○Takeshi Sasaki[1)]　Katsuyuki Oyama[2)]　Mitsugu Motoki[1)]

1)Apex Pest Control Co., Ltd　2)Chuosha Co.,Ltd

アメリカカンザイシロアリは1976年に東京都内で生息が報告されたのをはじめに，これまで宮城県，山形県，鹿児島県，大阪府，広島県等の他，首都圏では東京都中野区，江戸川区，埼玉県川越市，神奈川県横浜市，川崎市等でその生息が報告されている（森本 2009）．また横浜市では鶴見区において集中的な生息が見られており（春成・富岡 2004，元木ら 2013），東京都中野区においてもPCOに防除依頼が継続して寄せられている（大山 2020）．

アメリカカンザイシロアリの生息箇所を捉えるには，脱糞状況から糞の排出孔を目視で調査することで特定していくが，排出孔がうまく特定できないこともある．そのような場合にはマイクロ波センサーによるシロアリ検知も有効であるが，家屋の構造上目視で確認できない箇所も存在するため，このことが防除を困難にする場合がある．防除困難な現場に遭遇した際には，様々な現場での過去の情報や，その共有が非常に役立つため，現場事例の蓄積は大変重要である．

過去に当学会大会においては元木ら（2013）が横浜市鶴見区の病院における事例を報告したが，今回その近隣の家屋において被害が発生し，防除を行う機会を得た．

その家屋ではシロアリ用ムースエアゾール剤（有効成分；フィプロニル）による糞の排出孔からの注入処理に加え，木部露出部分に対する懸濁剤（有効成分；チアメトキサム）の残留処理を行った．

また，風呂場天井裏が最も被害が顕著であり，さらにアメリカカンザイシロアリが侵入したと思われる箇所が見られたため，防虫ネット（タフガードネット）による封鎖を行った．

その後防除は完了したと思われたが，一部で脱糞が見られたため現在も防除は継続中である．

今回はこの事例報告の他，東京都中野区における対応例も合わせて紹介したい．